

前回会議のまとめ（振り返り）

1 総括

（1）骨子案（2つの検討事項）

- ア 学校の適正配置基準
- イ 地域の特性等を踏まえた配慮事項

（2）委員長総括

「子どもたちの未来は、大人の責任で考えていかなければならない。議論が平行線のままということではなく、共通理解を図って、委員皆さんの合意の下にまとめていきたい。」

2 主な意見

（1）学校の適正規模について

小規模校について

- ① 資料※では、「小規模校は課題がある。」という論調が見えるが、学校現場ではどのように感じているのか？

※アンケート、地域懇談会、検討委員会の中で寄せられた意見をまとめた資料

- ② 小規模校の保護者が現状をどのように感じているのかなど、学校規模ごとの詳細な分析をしてほしい。

- ③ 複式学級保有校の保護者だが、複式学級を解消してほしいとは思っていない。もっと（子どもが）多い方がいいとは思っているが、小規模での学校運営は続けてほしいと思っている。複式学級のある他校の保護者も（複式学級を）解消すべきと思っているのか知りたい。

- ④ 「複式学級のデメリットが大きいのに、地域のために学校を残すのは避けてほしい」という市民意見があったが、複式学級のデメリットとは何か。

- ⑤ 中里小中は、小中学校の教員に兼任辞令を出して、両方で授業ができるようにしている。複式学級を解消するためにいろいろな工夫をしていて、小中一貫教育もその一つ。学区も市内全域としており、中里小中の固定した学区はない。現在は、本来の学区の人数の2倍（の人数）の子どもたちが通っている。

(2) 配慮事項について

ア クラス規模について

丁寧な指導

- ① 大規模の中学校の保護者だが、学年によっては40人近い学級もあり、「多い」と感じている。小規模校の良さに「丁寧に指導してもらえる」とあるが、(規模に関係なく)丁寧に指導してもらえる権利はあると思う。先生の目が届いていないと感じることもあり、(1学級の人数は)少なくしてほしい。

教員の手厚い配置

- ② 統合によって学校が少なくなれば、教職員が余ると思うが、その分を市で雇用するなどして、学校の教員を増やす(手厚く配置すること)はできないか。

イ その他について

- ① 学校は教育をするところである。誤解を恐れずに言えば、地域活動と学校の統合などの問題を同じ土俵で議論しても進まない。いつまでも平行線でまとまらない。
- ② 地域活動と学校の適正配置については、分けて考えた方が良いという意見には賛成である。しかし、防災に限らず、地域の協力なくして学校は成り立たないということも事実である。教員は、教科書の内容は教えられるが、実際の農作業などは教えられない。地域の方に協力していただいて、より深まりのある学習になっている。

以 上